

中富良野町景観色彩ガイドライン

■色彩ガイドラインの目的

このガイドラインは、「中富良野町景観計画（令和5年10月策定）」のうち、色彩に関する基準や考え方を解説したものです。また、景観計画に掲載している「色彩基準」に加え、中富良野町の景観と調和する街並みをつくるため、建築物の外壁と屋根の推奨カラーを紹介しています。

本ガイドラインを活用し、中富良野町の景観がより魅力的になるよう建築物などの色彩を検討してください。

■色彩ガイドラインの活用方法

建築物などの新築・新設・塗り替えなどを計画している場合は、本ガイドラインをご覧ください。これらの内容を踏まえて色彩計画を検討し、中富良野町の景観に調和した色彩としてください。なお、計画をしている建築物などの規模によっては、事前協議や届出が必要となります。本ガイドラインや景観計画などについて、不明な点がございましたら、中富良野町企画課建築景観係までお問合せください。

色の表示方法

中富良野町の景観づくりにあたっては、日本工業規格（JIS）にも採用されている「マンセル表色系」を用いて色彩の基準を表し、一つの色を「色相」・「彩度」・「明度」の組み合わせで表現します。

①色相

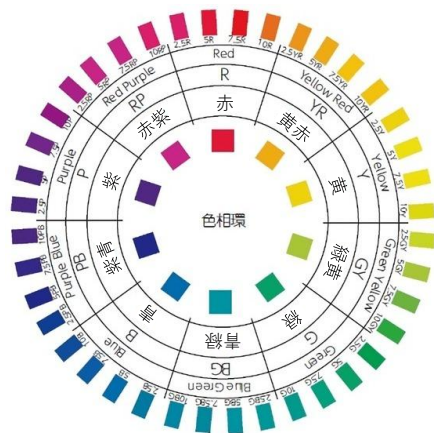
色合いの違いを「色相」として表します。色合いを、基本色の頭文字をとったアルファベット、R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)、GY(黄緑)、G(緑)、BG(青緑)、B(青)、PB(青紫)、P(紫)、RP(赤紫)の10色相と、その度合いを示す0から10までの数字の組み合わせで表したものです。

②明度

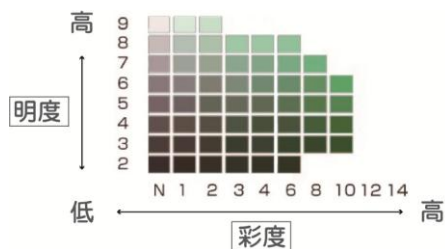
色の明るさの度合いを「明度」として表します。0から10までの数字を用い、明るい色彩ほど数値が大きくなります。色味のない無彩色はN5 などのように最初にニュートラルの意味を表すNをつけて明るさの度合いだけで色彩を表します。

③彩度

色彩の鮮やかさの度合いを「彩度」として表します。鮮やかな色彩ほど数値が大きくなりますが、最大の数値は色相によって異なります。



色相環 ※色相を円環状に並べたもの



明度・彩度の例 ※緑の場合

※マンセル記号と読み方

3つの属性の尺度を、色相、明度、彩度の順に並べたものがマンセル記号です。右の色は次のように表し、「10ワイアル、6の3」と読みます。

10YR 6/3
色相 明度 彩度

色彩の基本的な考え方

中富良野町の景観特性は、土台には森林や丘陵地、盆地、河川などの「自然・地形」、その上に特有の地形を利用した「農林業」があり、中富良野町らしい景観を創り出しています。自然景観や農林業の景観を際立たせ、将来に渡って守っていくため、以下を色彩の基本的な考えとします。

「視点場からまちを見た際に、景観資源及び周囲の自然景観を引き立て馴染む色彩とする」



中富良野町の景観と調和する街並みとするためには、春・夏・秋の自然、草花や農作物の色彩よりも派手さを抑え、冬の雪景色の中でも温かみのある印象の建築物の色彩が求められます。

一方で、彩度が高めである田畑の中の赤い屋根などは、中富良野町の人々が親しみ、地域らしさを表す農地の風景の一つとなっていることから、例外として取扱い、昔から続く風景を今後も継承していきます。

※視点場：眺めを楽しむ場所のこと。視点（人）が位置する場所のこと。北星山など。

※景観資源：町の景観を印象づける視対象。十勝岳など。景観計画P20参照。

色彩の配慮事項

■「図」となる色＝目立たせる色

図となるものの特徴としては、変化するもの、動的なもの、短期的なもの、小面積のもの、アクセントとなるものなどがあります。

例えば、花や紅葉、積雪は季節の変化を知らせ、祭礼や祭事などの色は町を楽しく彩る要素です。また、交通標識などの色は、人々の安全安心に関わる重要な色です。鮮やかな色彩には暮らしに必要な意味や機能があります。

■「基調」となる色＝馴染ませる色

基調となるものの特徴としては、不変的なもの、静的なもの、長期的なもの、大面積のもの、ベースとなるものなどがあります。

建築物は常に同じ場所で大きな面積を占めます。これらに高彩度な色彩を用いると、意味や機能を持つ派手な色彩が目立たなくなってしまいます。これらのことから、建築物の色彩は周囲に馴染ませることを基本とします。

図となる色 特徴・変化・動的・短期的・小面積・アクセント

自然物の例



- ・ 季節を彩る花々
- ・ 落葉樹の紅葉
- ・ 飛び交う蝶や鳥

人工物の例



- ・ 交通標識・安全標識
- ・ 案内看板
- ・ 祭礼・催事の色

高彩度色

中彩度色

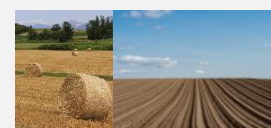


- ・ 水田・農地の緑
- ・ 沿道の街路樹



- ・ 屋外広告物
- ・ 建築物のアクセント
- ・ 建築物の低層部

低彩度色



- ・ 土・岩石
- ・ 樹皮
- ・ 枯れ草・牧草ロール



- ・ 建築物の中高層部
- ・ 建築物の屋根
- ・ 照明灯・柵類

基調となる色 特徴・不変・静的・長期的・大面積・ベース

図 景観の中で図となる高彩度色と基調となる低彩度色の例

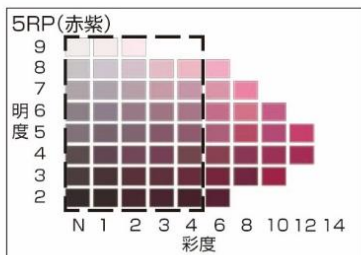
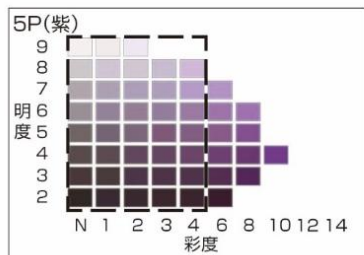
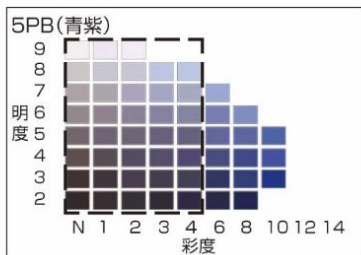
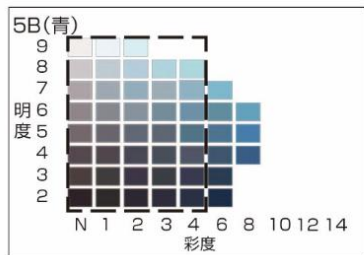
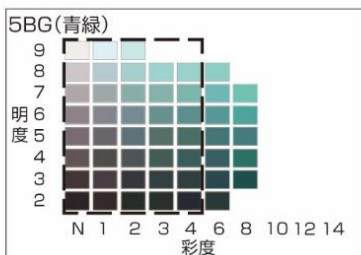
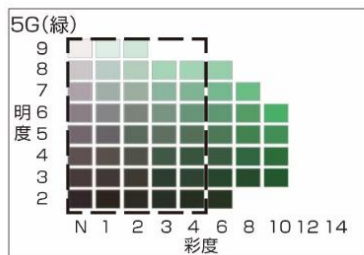
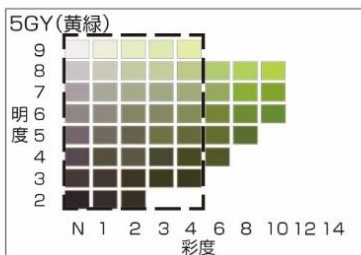
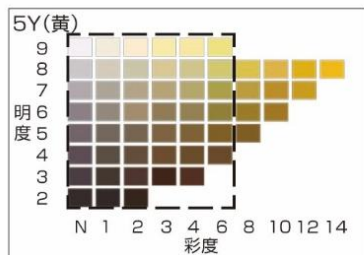
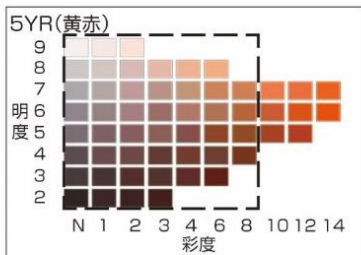
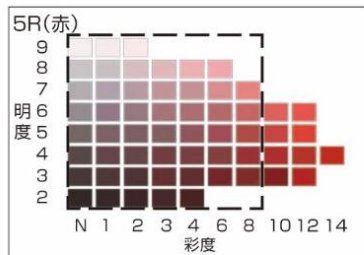
中富良野町の色彩基準(中富良野町景観計画P42)

建築物・工作物等の基調色は周辺の景観との調和を図り、極端に華やかな色彩とならないように配慮します。なお、色彩基準は北海道景観計画と同様の基準です。

※基調色とは：塗装等でその中心となっている色。最も大きな面積に使われる色のことをいいます。


■基調色とする色彩の範囲

色相	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP
彩度	8以下	8以下	6以下	4以下	6以下	4以下	6以下	4以下	4以下	4以下
明度	0~10									



【色彩基準の適応外のもの】

- 意図的な着色を施していない石材、木材、レンガ、コンクリート、金属材（ステンレス、アルミ、鉄他）、ガラス材等で仕上げたもの及びこれらに類するものの色彩
- その他、航空法に定められた屋間障害標識設定物件の塗装方法など、法令等により定められた色彩

 : 基調色として使用できる色

中富良野町の推奨カラー

現状の中富良野町の景観との調和を図り、中富良野町らしさを活かしていくため、前頁で紹介した色彩基準に加え、建築物の外壁と屋根には「推奨カラー」を設定しています。

■壁面の推奨カラー

「自然の色を引き立たせるため、外壁は穏やかな色彩とする」

- ・ 中～高明度、低彩度
- ・ 特に暖色系（Y系、YR系、R系）の低彩度色で穏やかな印象とする。
- ・ 自然素材は周囲の自然と調和し、温かみや独特の質感があり、経年で風合いが変化する魅力があることから、可能な限り自然素材の使用を推奨する。
- ・ 木材などの自然素材の場合は、無彩色の低明度色や、暖色系及び寒色系の低明度・低彩度色（黒系、濃い茶系、濃い緑系など）も柔らかい印象となる。

<壁面の推奨カラー>

5R7/0.5	5YR8.5/1	5Y8/0.5
10R6/1	10YR8/1	5Y7/1
10R3/2	10YR6/3	2.5Y5/2

<低明度・低彩度の木材外壁イメージ>



※近似値を含む

■屋根の推奨カラー

「屋根は周囲の街並みから突出しない深みのある色とする」

- ・ 低～中明度、低彩度
- ・ 自然景観に馴染む落ち着いた低彩度の範囲であれば、緑や青などを使用し、落ち着きがありながらもリズム感のある景観を創出する。
- ・ 農地の屋根は、原色は避けるものの、現状見られるような高彩度の色彩を使用するなど、地域の人々が親しむ中富良野町らしい景観を継承する。

※ただし、一定数の建物が一つの敷地に集積している場合は、高彩度の色彩の屋根を、敷地内の建物の半数以下に抑えるなど、周辺との調和に配慮する

<屋根の推奨カラー>

10R3/3	5GY4/2	N5
5YR3/3	10GY3/2	N4
10R2/1	5PB3/2	N3

<農地の高彩度な屋根の例>



※近似値を含む